

令和2年4月23日

南の風 341

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

本来なら一年を通して、もっともさわやかで英気あふれる季節なのですが、何ともどんよりとした閉塞感が満ちています。

ミニバス指導に関わって45年以上になりますが、2ヶ月に渡って活動ができないのは初めてです。

この新型コロナウイルス感染症は、『人とのつながりを断ち切る』ような恐ろしさがあります。

でも負けてはいけませんね！！ 元気をだして乗り切りましょう！！早期終息を固く信じて、今は一人ひとりが責任を持って自粛生活に耐えましょう。

そんな折、中学の指導者の方からメールがきました。『スクリーンのかけ方』についてです。

「BリーグやWリーグのゲームを観ると、スクリーンのかけ方に気になることがあります。バックスクリーンでも、サイドスクリーンでもなく、ユーザーのディフェンスの斜め横からかける場面をよく見ます。ユーザーのディフェンスに簡単にかわされると思うのですが、何か理由があるのでしょうか。また、スクリーンのかけかたで注意すべきことがあればよろしくお願いします。」という内容でした。

スクリーンのかけ方、スクリーンの守り方は、ここ数年来 U15以下でもいろいろな考え方が講習会等で示され、どの考えが育成年代には適しているのか迷っている指導者も多いと聞きます。

せっかくのお尋ねですから、現在私が考えている中学校やミニバスで身につけてほしい『スクリーンのかけ方・守り方』についても書こうと思います。

最初に、日本のトップリーグがおこなっている、基本的な『スクリーンの守り方』を紹介します。『守り方』から紹介する理由は、バスケットボールは相手の守り方に対して、それをどう攻略するかが戦術となりますから、まず『守り方』の種類を取り上げます。

前説が長くなりました。オンボールスクリーンに対して、ファイトオーバーで対応しないことを前提として進めます。5つの守り方です。

コンテイン、スイッチ、ハードショウ（ヘッジ）、アイス、ダブルチーム（ブリッツ）です。

今回はコンテイン、ハードショウ、アイスの3つの守り方を取り上げて、お尋ねの『スクリーンのかけ方』を考えます。

コンテインとは、スクリーナーのディフェンスがゴール方向に下がり、ユーザー（ボールマン）にドライブからの簡単なレイアップシュートを打たせない守り方です。ロールして跳び込んでくるスクリーナーにも対応しやすくなります。コンテインは、ロングや3Pシュートが得意でないチームに有効です。

この守り方に対して、スクリーナーはユーザーのディフェンスの斜め後ろに行き、相手の尻の外側にスクリーンをかけます。相手の真横だとスライドステップ（スクリーナーの下側をスライドして対応すること）でかわされ易くなってしまいますからです。このスクリーンをかける時に注意すべき点は、ユーザーのディフェンスの視野外（真後ろ）からスクリーンに行き、接触してしまわないことです。イリーガルスクリーンでファウルになります。ユーザーのディフェンスの視野に入りながら尻の外側にスクリーンをかけ、動きを封じることがポイントです。 次号に続きます。